

会 議 記 録

会議名称	第 8 回社会教育委員の会議
日 時	平成 29 年 4 月 21 日（金）午後 1 時 33 分～午後 3 時 34 分
場 所	東棟 6 階 教育委員会室
出席者	委員/山口、藤川、天野、朝枝、小出、岩崎、多田、内山、笹井 区側/生涯学習推進課長、中央図書館次長、社会教育センター所長、 スポーツ振興課長、学校開放担当係長、社会教育推進担当係長（社会教 育主事）、教育連携担当係長（社会教育センター社会教育主事）、管理 係主査、社会教育センター主査
配付資料	<p><配付資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第 7 回社会教育委員の会議 会議録（案） 2 杉並区社会教育関係団体に対する補助金交付について 3 今後の生涯学習事業の展開に向けて <ul style="list-style-type: none"> －第 14 期杉並区社会教育委員の会議意見まとめ（案） ・教育委員会委員・管理職等一覧及び教育委員会係長級職員一覧 <p><参考資料>（委員のみ配付）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成 28 年度小学生名寄自然体験交流事業報告書 2 記憶を紡ぐ 天沼弁天池があった頃 3 人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システ ムの構築に向けて（論点の整理） <p>・すぎなみ大人塾 平成 29 年度コースについて</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育関係団体に対する補助金の交付について <ol style="list-style-type: none"> (1) 杉並区立小学校 P T A 連合協議会 (2) 杉並区立中学校 P T A 協議会 (3) 杉並区学校開放連合協議会 (4) 杉並区文化団体連合会 2 今後の生涯学習事業の展開について 「今後の生涯学習にかかる事業の展開に向けて－第 14 期杉並区社 会教育委員の会議意見まとめ（案）」について 3 その他

(意見要旨)

- 副議長 議長が遅れていらっしゃるようなので、はじめていきたい。
まずは、生涯学習推進課長からご挨拶を。
(生涯学習推進課長 挨拶)
- 副議長 人事異動の報告とそれぞれの紹介をお願いしたい。
(各関係者 挨拶)
- 副議長 それでは、この先は議長に進行をお願いします。
- 議長 すみませんでした。それでは、配付資料について。
(社会教育推進担当係長(社会教育主事) 説明)
- 議長 ありがとうございます。では、議題に移らせていただく。社会教育関係団体の補助金の交付について、改めて事務局から説明を。
- 社会教育推進担当係長(社会教育主事) 従前は新委員委嘱後に行っていたものを、時期を早め、今期社会教育委員の皆様にあらかじめご意見を聞かせていただくこととした。これに伴い、変更点を中心にして各団体の総会等のみなし額も含めて提示し、あわせて各団体の実態を把握した補助金交付団体調書のみでご意見をいただきたい。なお、補助金に関しての概要に大きな変更点はないが、2点ほど加えておかなければならない。1点目は、28年度までは5団体として杉並区体育協会を含んでいたが、4月に組織機構改正あり、所管であるスポーツ振興課が教育委員会事務局から区民生活部に移ったため、この団体に対する補助金支出にあたっては、今回の手続から外すこととした。もう1点は、杉並区学校開放連合協議会の補助金が、平成28年度までは約90万円余だったが、今年度は50万円と額がかなり減っている。これは、杉並区全体の補助金適正化に対して外部委員から適正な執行に務める観点でご意見をいただいていたのであるが、2年前に遡り、学校開放連合協議会の補助金の一部を見直すべきとのご指摘があったことへの対応である。該当部分に位置づく事業に必要な経費は、団体を経由することなく、事業費の中で支払うべきだという観点だった。このため、団体との話し合いの中で、減らした部分については、事業費という形で別途予算化し、事業全体に与える影響がないようにしているが、補助金の額はかなり変わった部分となった。
- それ以外の小学校、中学校、文化団体連合会は、今回も同等の額で補助をしながら、社会教育の振興を図る観点で予算化をしている。
- 議長 ありがとうございます。これまでは該当の活動はどうか、お金の執行は適正か等の団体ヒアリングを行うやり方もしてきたが、今回は、手元の資料をもとにして疑問等々あればいただく形で進めたいが、いかがか。
(なし)
- 議長 では、今回については、特に差し支えないものとして、議長名による文書で回答をしたい。よろしいか。
(了承)
- 議長 それでは、意見についてのまとめは、事務局とつめて対応させていただくようにして、次の議題に移りたい。今後の生涯学習事業の展開について、従前から議論を重ねた意見のまとめの説明を。
(社会教育推進担当係長(社会教育主事) 説明)
- 議長 ありがとうございます。今回が最後ということで、我々の意見を踏まえて、事務局がかなり加筆修正した文案になったが、ご意見、ご質問は

あるか。

- 委員 コーディネーション力のよりニーズの高さという部分で、今後の展望の中に、地域学校協働活動推進員のような公的な位置づけのことも書いてあるが、議論では、出前型・ネットワーク型は柔軟なコーディネート力の必要性があり、もう少し地域型の人による活動も必要だろうという話が出ていたと思うが、そこは入れなくていいのか。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 今回の報告の作成にあたり、記述を社会教育施策の今の状況からはじめることにしたため、中身としてそこまでは至れずに書けていないようなことがある。
- 議長 この件について、他の委員からはいかがか。
- 委員 科学館がなくなり科学教育をどのように展開していけるかということから出前型・ネットワーク型を進めていくことになったのであるが、出張する形にしたラセションは必要ないと捉えられないか。要は講座等のように一方的に教える機会にするのではなく、自分たちでワークショップ等を開くという視点を大切にしたいということである。
- 副議長 多分目指している方向は同じなのだが、使っている言葉の概念が少しずつつれていて、どちらかというインターネットのようなネットワークを指しているようだが、こちらで言っているネットワークは、本当に人と人とのつながりのことである。
- 議長 おっしゃるとおりだ。コミュニケーションの力とかかわる力は、同じような言葉だけど違う。コミュニケーションはある種の広い概念で、かかわるというのはもっとアクティブな概念だ。アクティブだからこそ、そこに学びが生まれる。社会教育の原点だと思っているところだが、お互いに学び合うところを重視しているのでネットワークもそのように考えている。そこを共通理解していただければありがたい。
それから、「はじめに」のところにも、「知の循環」という言葉があるが、両方が知を得て伸びていくと考えるべきなのでぜひ使う言葉を見直していただきたいと思う。行政はの中でコーディネートという立ち位置にいるのが理想だ。コーディネーターはしなければいけないが、かかわり合いは、市民の間での話で、自由にやってもらった方がいいと思う。
- 委員 それは、つなげるという意味であろうか。
- 議長 利害調整するという意味でつなげたりすることで、サポートすることは行政の側からも必要であろうが、コーディネーターそのものは、市民であるべきだ。
- 副議長 コーディネーションも、市民がやらなければ、このダイナミックな動きはできないのではなからうか。行政はインフラを支える感じで捉えているが。
- 委員 まさにそれを望みたいが。
- 委員 しかし、その先に学び合いがないといけない。科学教育も、出前で成功したから、それがそのまま社会教育につながると言うものではない。そのために同じ出前・ネットワーク型という言葉を使うにしても、そこに違いがあることを認識した方がいいと改めて思う。
- 副議長 先日、きずなサロンへ行ったが、コーディネートする人たちの頑張りのおかげで、ふらっと行ける場所が区内に充実し、世代間の交流もできている。住民の意識の高さや支え合いがあることを知った。

- 委員 人をつなげる役割がどこかにあることによって、思いが形になってつながっていくように思われる。
- 議長 かかわり合いを最もよく現す訳語は「コラボレーション」。協働として「働」という字を書く。コラボレティブであるというのは、本当は「コラボレーション型」としていく方が、かかわり合いを表現することになるので一番わかりやすく、個人的には「コラボレーション型」がいいと思っている。
- 教育連携担当係長 社会教育事業のよりどころをどこに持たせながらにしていくかという意味で、社会教育委員のまとめをいただくことで次の事業展開をするときの根拠になる。「出前型・ネットワーク型」を支える諸機能の拡充を図るための整備、職員が本来の力を地域で発揮するということが、私たちがセンターの職員に対して言うていく根拠にもなる。
- 議長 なるほど。その点について、どなたかもしお考えがあれば。
- 生涯学習推進課長 今後、杉四小跡地での検討の中で、そこをどのように生涯学習分野のものとして連動させて考え、具体化していくのかについては、まさにこれからこの場でご議論をいただきたいと考えている。
- 議長 具体的なことは来期にとのことだが、今のことでお考えがあれば。
- 委員 大人塾プレミアム講座を企画したが、大人塾は行政が企画、プレミアムは卒業生が担っていて、例えば職員ではない人だからできることがある。私が大人塾を卒業したこともあるが、職員からすれば私を知っていたことが大きい。職員は、いろいろな人や地域の資源などを知る必要もあろうし、それを活用するのがコーディネーターとしてのコーディネートだと思う。行政が企画したもので、それをきっかけに新たに生み出されたものというのがわかれば良い。
- 議長 なるほど。ネットワークにせよ出前にせよ、拠点から外に出て分散するわけで、分散すればするほど、インタラクティブな関係性がそこにあれば、また拠点をづくりたくなることが生じるのだと思う。その分散をサポートする、分散を適切かつ円滑にやっていくための拠点であると同時に、さまざまな事業を開催した実績をそこに持ち寄って議論し、情報交流して、もっと良い知見、知性をクリエートできる機能を持ってもらえたら良い。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 歴史を振り返るとそのとおりで、拡散と集積を繰り返してきているように思う。かかわった人たちがつながろう、固まろうと思うと、またクロスオーバーしてきて集積ということが求められる。そのような繰り返しをしている印象があり、杉並の社会教育の進化は、その中でつくり上げてきている部分があるように思う。
- 議長 ありがとうございます。他にご意見がなければ、今日のご意見を踏まえ、この原案と皆様のご意見をまとめて、最終版をつくらせていただくが、それでよろしいか。
- （ 了承 ）
- 議長 では、今期のまとめに関する議論はこの辺にして、残された時間で今期最後のご挨拶をそれぞれからいただく。
- （各委員 あいさつ）
- 議長 皆さん、ありがとうございました。事務局の皆さんもどうぞ。
- （事務局側順次あいさつ）
- 議長 どうもありがとうございました。これで閉会します。